

第5回 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	平成26年11月25日（火）13時00分～17時00分
開催場所	磯子区生活支援センター 相談室、はーと友神奈川2階 多目的研究室
出席者	伊東委員、武津委員、霜島委員、大門委員、西村委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者0人） ※議題4は非公開
議題	1 指定管理者の自己評価の提出 2 事務局による評価案の提出 3 指定管理者への意見聴取 4 評価の審議
決定事項	なし
議 事	1 指定管理者の自己評価の提出 指定管理者より、自己評価を書面にて提出。 2 事務局による評価案の提出 事務局より、事務局による評価案について説明 3 指定管理者への意見聴取 委員より、指定管理者へ意見聴取 4 評価の審議 【主な質疑内容】 <u>議題3 指定管理者への意見聴取</u> □磯子生活支援センター 委員：来館者が減ってきているが、関わりの変化はあるか。 指定管理者：来館者数は一人当たりの利用日数が減り、減少している。一方で、生活支援センターで自立生活アシスタント、地域移行、計画相談を受けてきているので利用者層は拡大しているように感じている。以前はサービスに繋がらない方が多かったが、今はサービスを利用する方の支援も行っており、アウトリーチも含め広がりが見えてきた。 委員：第三者委員は定期的に来ているか。 指定管理者：定期的には来ていないが、報告連絡を行っている。苦情解決第三者委員は法人全体を管轄している。 委員：ルール等、張り紙が少ない理由はなにか。 指定管理者：あったほうがいいという意見もあるが、居場所として居心地の良い空間作りを心掛けている。注意書きは必要最低限にしている。 委員：一定期間来館されない方にアプローチしているとあるが、一定期間とはどのくらいか。 指定管理者：2パターンの期間があり、普段来館されている方は来館されなくなってから1ヶ月後、電話相談等の普段来館されていない方は電話連絡が

	途絶えてから5ヶ月後に連絡をしている。 委員：磯子区の地域課題は何か。 指定管理者：磯子区は社会資源が多くない。また、家族と同居されている方が多い。両親が亡くなってから支援が始まるケースが多い。 委員：ピア活動は今後行っていく予定はあるか。 指定管理者：月に1回、ピア活動で話し合いをしているが、利用者の思いが一つになっておらず、今後磯子でどんな活動していこうか考えている段階。 □神奈川生活支援センター 委員：利用者の年齢層はどのようなになっているか。 指定管理者：去年の4月で、登録者平均年齢は43.5歳。 フロア利用の方は、平成11年開所以来ずっと通い歳を重ねているが、相談支援に関しては利用者の年齢層は広い。 委員：区の福祉保健センターとの月1回の打合せは、どのような内容か。 指定管理者：区内の計画相談含めての相談支援体制について、サービスに繋がりにくい方の支援方法について話し合っている。区内に病院、地域活動支援センターなどといった社会資源が多くあり、それら関連機関の定例会の活用も議論している。 委員：一般の市民に向けた普及啓発活動はどのようなことをしているか。 指定管理者：昨年度は“こころの健康講座”を5ヶ所の地域ケアプラザで開催。それぞれの地域の希望する内容に合わせて開催している。 委員：“相談支援機関としての居場所”という表現があるが、どういう意図があるのか。 指定管理者：相談機能だけでなく、普段からコミュニケーションを取り合える居場所を兼ねそろえた機関。相談有無に関わらず通え、相談したい時にはしっかりとサポートを受けられる場所。 委員：ボランティアはどのような活動か。 指定管理者：毎週木曜、ボランティアが利用者と話をしている。 以上
資 料 ・ 特 記 事 項	1 資料 (1) 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会委員名簿 (2) 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 (3) 第2回～6回選定評価委員会の評価の流れ (4) 横浜市磯子区精神障害者生活支援センター評価シート（案） (5) 横浜市神奈川区精神障害者生活支援センター評価シート（案） 2 特記事項 次回、集合場所は中区生活支援センター。

